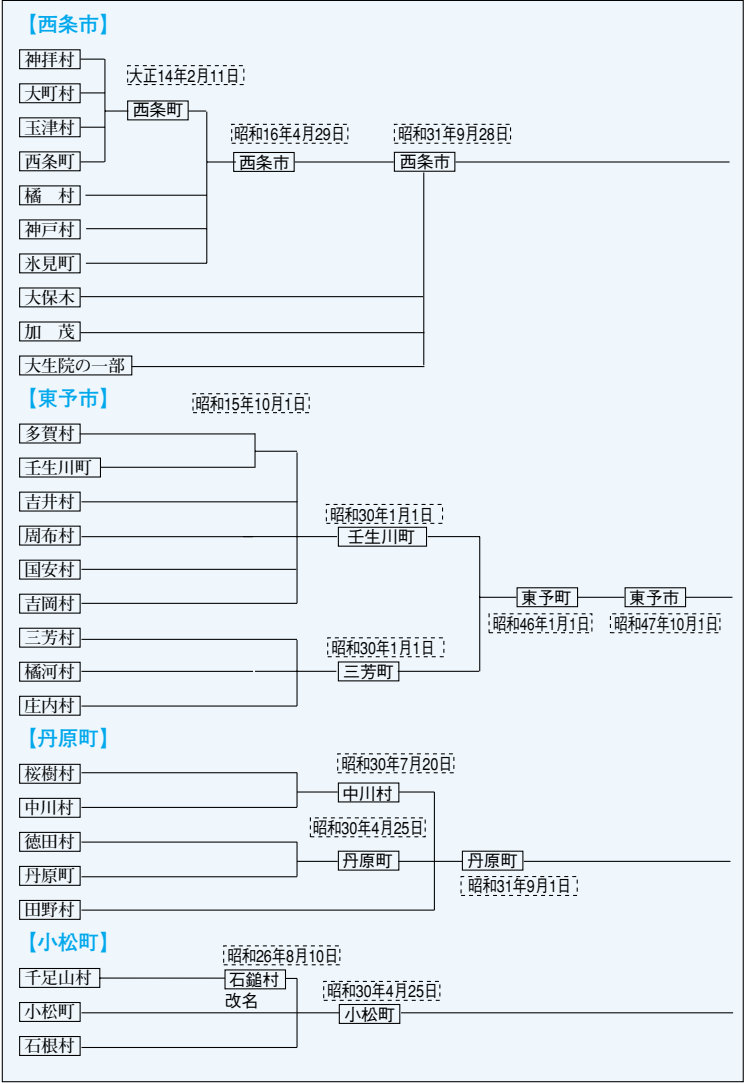


4市町の沿革（合併の歴史）



歴史

市町	歴史
西条市	西条は、1670年紀州藩徳川頼宣の2男松平頼純が藩主となってから明治維新まで20年間城下町として栄えた。 大正14年に西条町・玉津村・大町村・神拝村が合併。昭和16年隣接する飯岡村・神戸村・橘村・氷見町と合併し、県下6番目の市制を施行。同31年、山間部の大保木村・加茂村と合併、大生院村の一部を編入して現在に至っている。39年新産業都市の指定を受け、順調な企業立地が工業都市化を進め、新たなイメージの工業地帯を形成しつつある。
東予市	明治22年町村制の実施とともに壬生川村を組織し、同34年町制をしき、昭和15年多賀村と合併、同30年国安村、吉岡村、吉井村、周布村の4村と合併し、新しい壬生川町となった。また、同46年1月に三芳町と合併、東予町となり、同47年10月市制を施行した。古くから穀倉地帯、阪神地方との商業港として栄えてきたが、39年に新産業都市の指定を受け、大型企業が進出、63年の愛媛テクノポリス指定や今治・小松自動車道の開通により、より一層の飛躍が期待される。
丹原町	明治23年町村制の施行により、村が合併し、桜樹村、中川村、田野村、福岡村、徳田村が合併して自治体の基礎が出来上がった。大正2年、福岡村が町制をしき「丹原町」となる。町の中心の商業地域は、天保元年につくられた「松の町」とよばれ、特殊な保護政策を受けて栄え、現在もその名残を残している。昭和30年4月丹原町と徳田村が合併して丹原町に、同年7月に中川村と桜樹村が合併し中川村となり、同31年9月に、丹原町、田野村、中川村が合併して現在の丹原町が誕生した。
小松町	江戸時代前期寛永13年一柳直頼公が小松藩主になってから明治まで232年を経て、市町村制の実施により、新屋敷村、南川村、北川村と統合して小松村となる。同31年町制実施により小松町になる。昭和30年4月、小松町、石根村、石鐘村が合併して小松町として新しく発足した。 本町は、米麦・施設園芸・果樹中心の農林業地帯であったが、39年の新産業都市の指定により、住宅適地として、また、高速道時代の交通の拠点として、その姿を変えつつある。

2市2町の歴史

市町村合併には一定の規模は求められていますが、大きければよいというだけではありません。数合わせの合併でなく、地域の歴史や地理的条件、生活圏の広がり、住民の一体感などを尊重したまちづくりを目指さなければなりません。

この地域の歴史の概略を紹介します。各市町の市誌や町誌は図書館や公民館に置いてありますので、興味のある方は是非読んでください。

2市2町の名前の由来

西条・東予・丹原・小松それぞれの名前の由来はご存知ですか？

皆さん、それぞれの名前に愛着を持っていると思いますが、名前がいつどのように決まったのかはあまり知られていません。

もっと詳しく調べると、大変おもしろい研究ができるのではないのでしょうか。

市町名の由来

市・町名	由来
西条市	昭和16年に西條町・飯岡村・神戸村・橘村・氷見町が合併した際に、昔からこの地域の総称である「西條」を市名に決定した。 西條という地名は条里制に起因するものと言われており、新居浜市角野にあった深谷寺の古文書に「島山以東を東條といい、島山以西を西條という」とあったとされ、鎌倉末期のものと推定される文書に「新居西條庄」という記載があります。
東予市	昭和46年に壬生川町と三芳町が合併した時に、「東予は愛媛県の東の地域として、古くから呼称されているものであるが、この地域は東予の中心であり、かつ、港湾の名称も東予港となっており、港名と町名が一体であることは、ごく自然である。また、この地域が純農村地帯より脱皮して、東予新産業都市の中核的役割をもつ田園工業都市として、飛躍するなかで……」という理由で新町の名称として「東予町」となり、今日に至っている。
丹原町	松山藩初代藩主松平定行公が領内に3個の市場を設けた内の一つが丹原である。農村にある商家を廃して1地区に集めて商業町を計画的に創設したもので、1644年から1647年にかけて、今井村、池田村、願連寺村に接した場所に長さ4町奥行き60間の新しい在町づくりが行われた。 丹原の由来は、江戸時代に新たに商業地として整備された町が、元は砂礫の原野(赤い土地)であったところに由来する。丹原の“丹”は赤いという意味である。
小松町	寛永13年(1636年)伊予西条藩から一柳直頼に一万石が分与され、一柳小松藩が成立した。藩祖一柳直は、陣屋建設地を色々物色した結果、西条領の氷見村に接する新屋敷村の塚村に決定した。ここは丘陵地で古墳の多いところで、一面に小松が生えていたことから、この地を小松と改め、陣屋建設を始めた。 明治22年の町村制施行に伴い、南川村、北川村、新屋敷村が合併して、新しい名称を「小松村」とし、旧藩名を復活させた。